

探究のプロセスで情報活用能力を育む授業の在り方

ー総合的な学習の時間における情報を吟味する活動を通してー

いわき市立玉川中学校 福島県教育センター 長期研究員 佐久間 基

1 研究の趣旨

次期中学校学習指導要領では、情報活用能力が言語能力や問題発見・解決能力と同様に、「学習の基盤となる資質・能力」として新たに位置付けられた。総合的な学習の時間においても、情報活用能力は探究的な学習を進める上で大変重要であるとされており、探究的な学習における生徒の学習の姿として探究のプロセス（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）が示されている。

本研究では、総合的な学習の時間における探究のプロセスにおいて、情報を吟味して自分の考えを形成できる生徒を育むことを目指した。本研究において、情報を吟味することを、「様々な情報源から収集した情報について、信頼性や重要性を判断したり、考えるための技法[※]を活用しながら整理・分析したり、複数の情報を組み合わせる新たな情報を創造したりすること」と捉えた。

※ 考える際に必要になる情報の処理方法を、「比較する」、「分類する」、「関連付ける」のように具体化し、技法として整理したもの。

総合的な学習の時間の探究のプロセスにおいて、以下の手だてを講じれば、情報活用能力を育むことができるであろう。

【手だて1】情報発信者としての目的意識をもたせる単元構想

【手だて2】「情報活用ガイド」による客観的な評価・改善

【手だて3】考えを言語化する場の設定

2 研究の概要

(1) 授業実践の概要

福祉をテーマとし、『みんな』が安心して暮らすまちにするためにはどうすればいいだろう」という課題を設定した。そして、収集した情報を整理・分析し、プレゼンテーションにまとめたものを、学校Webサイトを通して発信する探究活動を行った。

(2) 【手だて1】情報発信者としての目的意識をもたせる単元構想

Webサイトを通して多くの対象に向けて情報発信することを生徒に提示する。また、探究活動を行う中で、学習内容に関する知識をもつ外部からのフィードバックをもらう場を設定する。

(3) 【手だて2】「情報活用ガイド」による客観的な評価・改善

適切な情報の収集、整理・分析、発信の方法について考え、班・学級で検討し、情報活用ガイド(以下、「ガイド」)を作成する。また、ガイドに基づき、自身の情報活用を振り返る場を設ける。

(4) 【手だて3】考えを言語化する場の設定

授業の振り返りの場面で考えを言語化する場を設けることで、収集、整理・分析、発信した情報を自分の考えに生かすことができるようにする。

3 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ① 学校Webサイトによる情報発信の場や、専門的な知識をもつ外部へ発表する場を設けることによって、情報発信者としての意識が向上し、情報の吟味に対する意識にも向上が見られた。
- ② ガイドを活用したことで、生徒は学習の中で気付いたことや今までの経験をもとに適切な情報活用について考えることができ、ガイドを基に自身の情報活用を客観的に振り返ることができた。
- ③ 授業の振り返りの場面などで、考えを言語化し蓄積させたことが、収集した情報や整理・分析によって得られた情報を考えの形成に生かすことにつながったことが推察される。

(2) 今後の課題

生徒が探究する時間を十分確保しながら、適切な情報活用について考えることができるように単元を構想する必要がある。また、ガイドを基に自身の改善すべき点を明確にさせる必要がある。